

ユーザー参加型の生物多様性データ収集を促すための施策（日本）

■ 背景 & 目的

生物多様性の保全に向けて、地域住民が自ら動植物の情報を集めて提供する「市民科学」が注目されている。特に、スマートフォンアプリを通じた投稿は、全国の人たちから大量の観察データを得られる手段として期待されている。一方で、多くの人々に継続的に参加してもらうには、行動を促す工夫（インセンティブ）の設計が重要。本研究では、スマートフォンアプリ「Biome（バイオーム）」の協力を得て、実証事業への参加同意が得られた830名のアプリユーザーを対象に、いきもの写真の投稿行動を促すためのランダム化比較実験を実施した。

● 研究方法

参加者を以下の3つのグループに分けてそれぞれの投稿行動を比較。

条件①「寄付型インセンティブ群」 投稿1件ごとに環境団体に10円が寄付される

条件②「金銭型インセンティブ群」 投稿数に応じて10円分の買い物クーポンがもらえる

条件③「対照群」 インセンティブなし

■ 結果

「金銭型インセンティブ」からは、**投稿数を大きく増やす効果が確認**された。
「寄付型インセンティブ」からは、投稿数全体を増やす効果は見られなかったものの、**珍しい種の投稿割合を高める可能性が示唆**された。

インセンティブの種類によって投稿行動の“量”だけでなく“中身”も変わりうる点が、重要な知見である。

■ 考察

本成果は、**国や自治体が市民協働で行うモニタリング活動の仕組みの設計に役立つ**だけでなく、**企業がインセンティブの原資を拠出することで、消費者の投稿行動を促すことを通じて、自社の社会貢献活動として生物多様性保全に寄与**するという「参加型スキームの構築」にもつながり得る。

